

おびひろ市民みらい会議

提 言 書

平成 19 年 11 月

目 次

1 . はじめに		P 1
2 . まちづくりの分野別検討結果		P 2
(1) 安全・安心	『すべての人が支えあい、安全で住みやすいまち』	P 3
(2) 経済・産業	『市民の英知を集めて自立し、共生するまち』	P 1 2
(3) 環境・生活	『帰りたいと思うまち』	P 2 1
(4) 子育て・教育	『四季を感じる人を育むまち』	P 2 8
(5) 市民協働	『市民がつくり育てるまち』	P 3 5
3 . 参加者名簿		P 3 9
4 . 検討経過		P 4 0

1 . はじめに

「おびひろ市民みらい会議」は、帯広市が策定作業を進めている「新しい総合計画」に市民の意見を反映するために、帯広市のまちづくりについての様々な提言を行うことを目的に設置されました。

「おびひろ市民みらい会議」には、公募による幅広い年代の市民59名が参加し、平成19年7月27日から同9月11日まで、全5回のワークショップを開催いたしました。

会議では、安心・安全、環境・生活、経済・産業、子育て・教育、市民協働の5つの分野ごとにグループをつくり検討を行いました。

各グループで出された意見は、帯広が住みよいまちになるよう、参加したメンバーの一人ひとりが日ごろの生活や様々な活動を通じて抱いていた、帯広市のまちづくりに対する考えなどを述べたものであり、本書はこれを提言書としてとりまとめたものです。

参加したメンバーにとりまして、「おびひろ市民みらい会議」で真剣にまちづくりについて語り合ったことは、大変貴重な経験となりました。

この提言書を、今後の総合計画策定審議会での論議や、市役所における策定作業の参考としていただき、「新しい総合計画」の中に反映され、将来のまちづくりに活かされていくことを願っています。

最後に、「おびひろ市民みらい会議」の実施にあたり、遠路お越しいただき、アドバイスをいただきました高崎経済大学准教授の佐藤徹氏ほか、お世話になった多くの皆様に心から感謝を申し上げます。

平成19年11月

おびひろ市民みらい会議

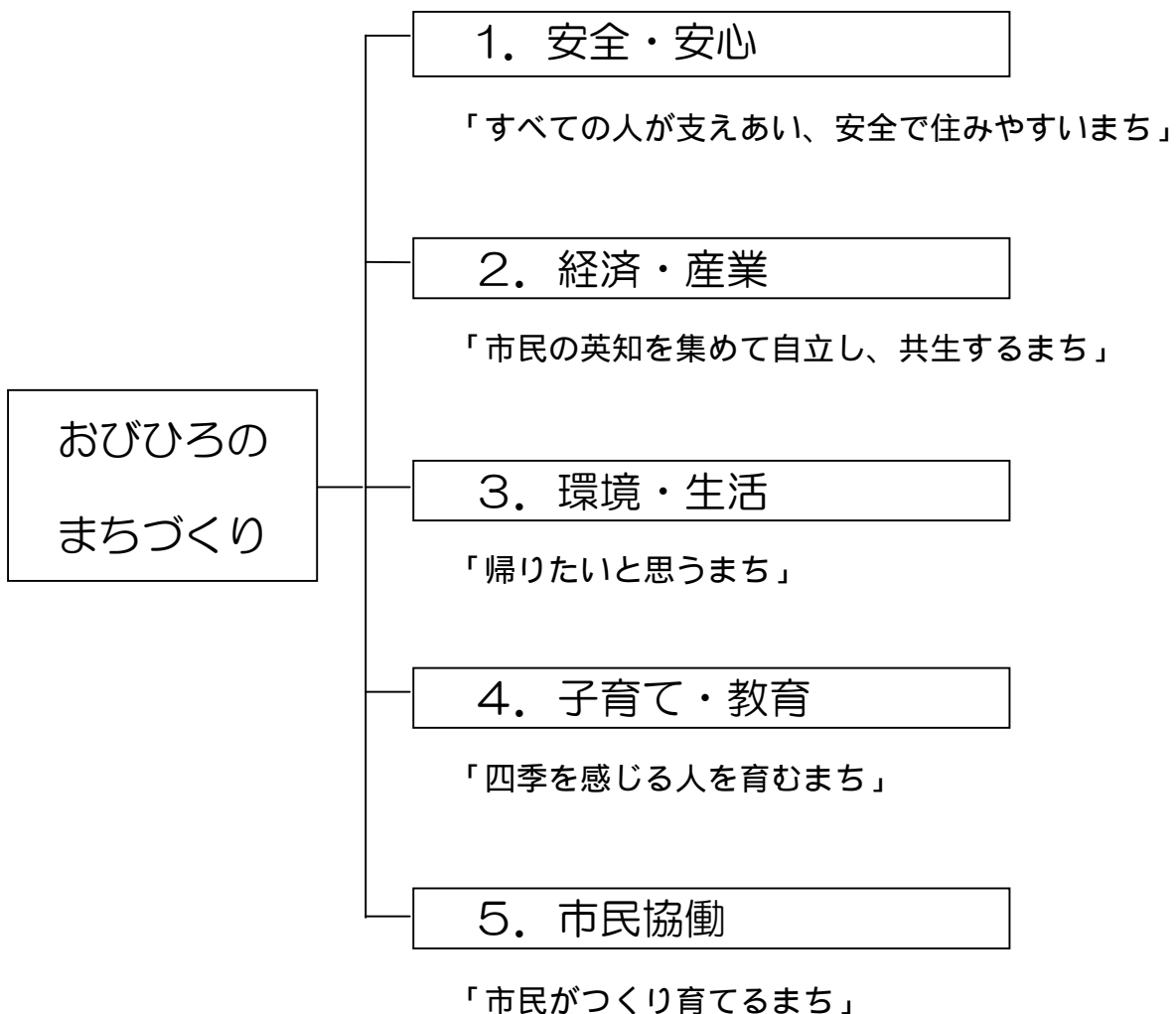
参加者一同

2. まちづくりの分野別検討結果

検討にあたりましては、まちづくりの各分野のテーマに従って、ワークショップ形式で議論を進め、帯広市の良いところ、悪いところなどの現状・課題を抽出し、これに対する施策の分類を行いました。また、この施策ごとに、目指していく目標を設定しました。さらに、目標を達成するための方策を出し合いまとめました。

限られた時間の中で、十分な議論ができずアイディア的な段階の方策等もありますが、参加した皆さんのご意見を一定程度、とりまとめることができたのではないかと考えています。

まちづくりの分野構成



1 安全・安心

現 状

市民が安全で安心して暮らせる環境をつくることは、まちづくりにとって基本的な課題であり、そのためには様々な分野で行政と市民が協力し合っていくことが大切です。

防犯に関しては、夜間の安全な通行のために、暗がりのある場所に街灯を増やすことや、子どもの安全確保、不審者等の情報の早期周知が求められています。また、災害時の地域、行政などとの連携も、安全なくらしのためには大切なものです。

交通安全に関しては、生活道路の舗装や道路の排水が不備なところも見受けられます。また、北国の冬の安全な道路交通を確保するためには、迅速な除排雪が求められています。

さらに、自転車利用の視点からみると、自転車専用道が少なく、利用者のマナーも良くないように思われます。

保健・医療に関しては、予防医療が進んできた一方で、病院を退院した後の受け入れ先が少ないなどの課題があります。

今後は、高齢社会に対応していく必要が一層高まってきますが、老人福祉施設は不足しており、公共施設や民間施設なども完全にバリアフリーになっていない状況にあります。特に、自動車中心の社会は、高齢者にとって住みづらい環境となっています。

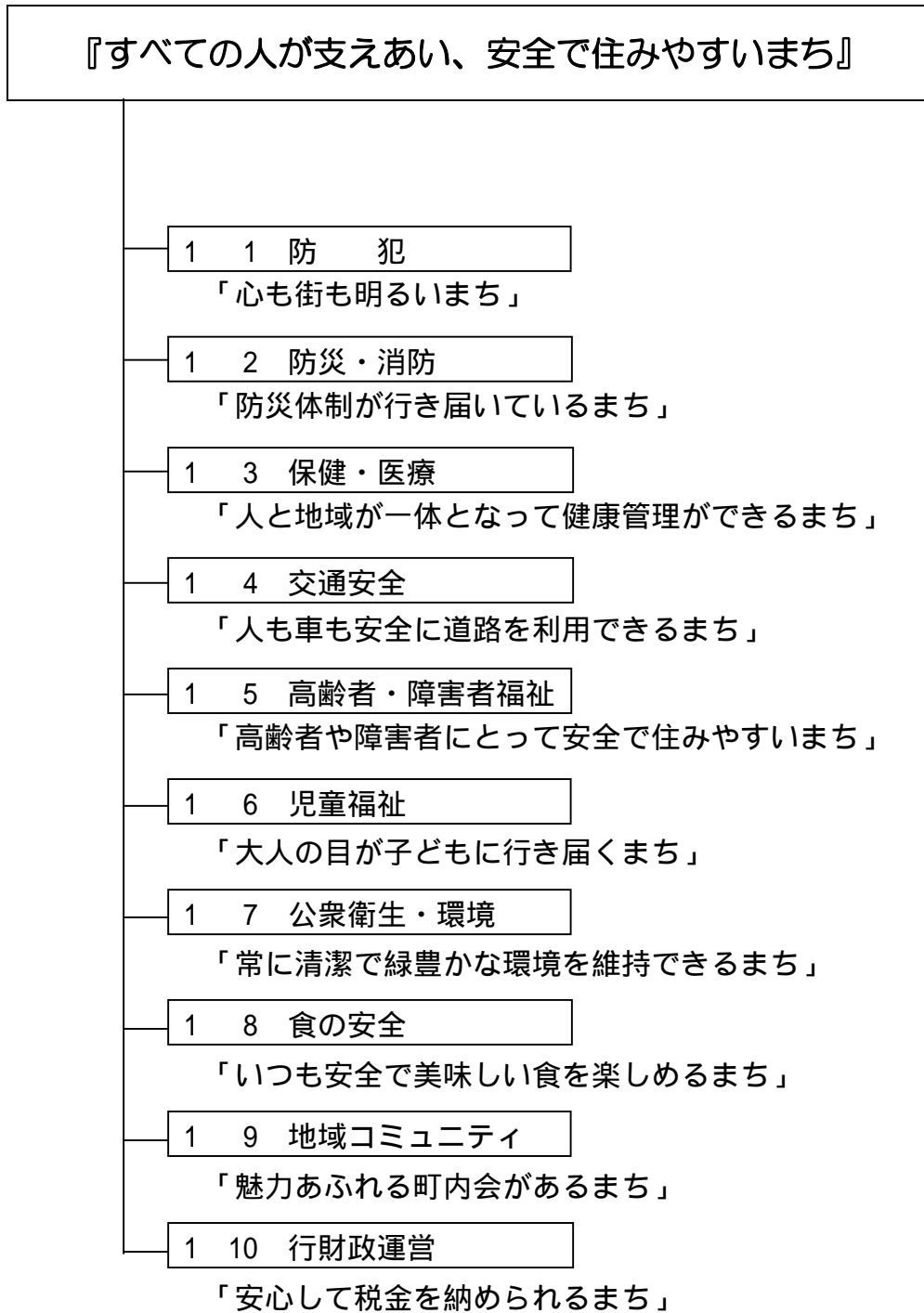
環境に関しては、まちには緑も多く、街並みも整っており、比較的きれいな状況にあります。また、公衆衛生面では、ゴミの収集の有料化やごみの分別も定着してきましたが、ごみ収集場所の適正な管理や迅速な収集体制の構築がさらに求められています。

帯広・十勝の食に関しては、おいしい水や生産者の顔が見える食品が多くありますが、さらに食材の安全性を高めていくことが求められています。

安心して市民生活を送るためには、何と云っても地域コミュニティを形成し、維持していくことが大切ですが、そのためには、基礎となる町内会活動の活性化を図る必要があります。

また、自治体が本来の役割を果たすためには、財政基盤の構築が必要です。今後も安全で安心できるまちづくりのために健全な行財政運営が求められています。

「安全・安心」分野の構成



1-1 防犯

基本テーマ 「心も街も明るいまち」

課題

- ・住宅街や公園では、夜間に暗がりがあるほか、見通しの悪い箇所もあることから、不審者の温床になる可能性があり、安全で安心できる生活のため、改善していく必要があります。
- ・犯罪予防に関する情報が不足しており、一方で住民も犯罪者情報に関心が薄い面もあります。行政や関係機関を含め、犯罪予防体制のあり方について検討する必要があります。
- ・また、安全安心な暮らしを守るためには、地域内での協力が不可欠ですが、その基礎となる町内会活動の低下が懸念されています。

目標
<ul style="list-style-type: none">・住宅街に暗がりがなく明るいまち・子どもたちが安心して遊べる公園があるまち・地域社会が連携して犯罪予防に取り組むまち・行政・地域が一体となった犯罪予防体制があり、防犯情報を共有できるまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・町内会活動を活性化し、自分たちでできることは協力して取り組む
- ・社会に悪影響を与える可能性のある犯罪等の情報を管理する
- ・行政と市民が協働し、犯罪にあった人の心のケアをする窓口を置く

1-2 防災・消防

基本テーマ 「防災体制が行き届いているまち」

課題

- ・災害に対する食糧備蓄やハザードマップに関する情報など、災害に備えるための情報が充分とは言えず、市の防災計画の市民周知が必要となっています。
- ・また、災害弱者に対する地域の連携体制の不足や、災害時の危機管理マニュアルに対する住民理解がすすんでいないなど、町内会などのコミュニティにおける防災意識がまだ低い状況にあります。
- ・防災訓練についても、十分に行われていると言えない状況にあります。

目 標

- ・ 違法駐車・廃車の放置・青空駐車のないまち
- ・ 災害弱者との連携がとれるまち
- ・ 非常食の確保など防災体制が取られているまち
- ・ 防災に関する啓発が活発で、地域の人達の防災意識が高いまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・ 災害に関する出前講座を行う
- ・ 市の広報などを活用して積極的に防災情報の提供を行う
- ・ 多くの人たちが参加する防災訓練、町内会指導を行う
- ・ 水害などの危険地域は特に防災体制を整備する

1-3 保健・医療

基本テーマ 「人と地域が一体となって健康管理ができるまち」

課 題

- ・ 救急医療体制を充実するとともに、病院などの医療環境を整えることが必要です。
- ・ また、入院期間が制限される医療体制にあることから、安心して医療を受けられるための取り組みも必要です。
- ・ 市民の健康に関する情報が不足している状況にあります。

■ 目 標

- ・ 安心して入院治療が受けられるまち
- ・ 救急医療体制などが整っているまち
- ・ 地域一体となって、市民の健康管理が行われているまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・ 高齢社会にふさわしい保健・医療体制を整備する
- ・ 万が一の時に対応できる NPO 的なネットワークをつくる

1-4 交通安全

基本テーマ 「人も車も安全に道路を利用できるまち」

課題

- ・違法駐車や、歩道への障害物の放置のほか、利用状況に適した道路整備がされていない状況が見られます。また、車と人の区分がされていない道路や、生活道路の維持管理が十分に行われていないなどの課題もあります。
- ・廃車放置や路上駐車などのモラルの低下や、歩行者・自転車・自動車のマナーの悪さなども目立ちます。この要因として、家庭・学校・職場における交通マナーの教育不足が考えられます。

目標
<ul style="list-style-type: none">・地域で交通マナーの教育が行き届いているまち・生活道路のメンテナンスが行き届いているまち・人も車も安全に道路を利用できるまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・家庭・学校・職場などで交通マナー教育を徹底する
- ・地域ぐるみ（主として町内会）で交通安全に取り組む体制をつくる
- ・道路案内、標識等を充実させる

1-5 高齢者・障害者福祉

基本テーマ 「高齢者や障害者にとって安全で住みやすいまち」

課題

- ・施設のバリアフリー化が不十分であるとともに、高齢者や障害者にとって公共交通機関が利用しづらく、また、高齢者などが交流できる場所が少ないことから、積極的に社会に参加しにくい状況にあります。
- ・高齢者の受け皿となる福祉施設等については、まだ十分でない状況にあります。
- ・また、社会全体でも高齢者や障害者を支える気持ちが足りないように思われます。
- ・高齢者の病気、事故、被災等に備え、一人暮らしのお年寄りなどの居住者情報を把握しておく必要があります。

目 標

- ・全ての人が支えあい助け合うまち
- ・人口・住民に合った福祉施設が豊富なまち
- ・全ての人が交流できる場や、使いやすい施設の多いまち
- ・隣近所で気配りができるまち
- ・公共交通機関が利用しやすいまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・福祉関連施設の更なる拡充を図る
- ・地域における互助の気持ちを醸成する
- ・自分の健康は自分で守るという環境をつくる
- ・高齢者のニーズに合わせたシステムをつくる
- ・体が不自由になっても自立できる体制をつくる

1-6 児童福祉

基本テーマ **「大人の目が子どもに行き届くまち」**

課 題

- ・子どもを守るためには地域ぐるみの対応が必要となりますが、近所の大人の子どもへの関心は低い状況にあります。
- ・また、子どもの安全を守るために取り組まれている「子ども 110 番の家」も十分に周知されていない状況にあります。

目 標

- ・大人と子どもが活発に交流できるまち
- ・子ども 110 番が普及しているまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・大人と子どもの交流する場をつくる
- ・学校の図書室を開放し、大人が子どもたちを身近に感じるところにする
- ・町内会の大きな行事などにも子どもたちを参加させるなど、地域内での大人と子どもの交流を持つ
- ・子どもたちを主役にした行事を多くする

1-7 公衆衛生・環境

基本テーマ「常に清潔で緑豊かな環境を維持できるまち」

課題

- ・清潔なまちを保つためには、ごみ収集ルールの周知徹底や、ごみ収集料金の適正化、収集所の適正管理が必要です。
- ・潤いのある環境を生み出す上で大切な緑の維持に対しては、住民意識の低さが見られます。

目 標
・ごみ収集所の管理など、ごみ収集ルールが徹底しているまち
・緑の維持管理に対する意識が高いまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・ごみの出し方や緑の維持について、地域で考える場をつくる
- ・市民のごみ収集意識向上のため、町内会などに対して市役所が説明会を開催する
- ・ごみ収集所にきれいな花を植える
- ・緑の維持をテーマにした祭りやイベントを開催する
- ・公衆トイレを清潔に、安心して気持ちよく使えるようにする

1-8 食の安全

基本テーマ「いつも安全で美味しい食を楽しめるまち」

課題

- ・帯広・十勝は安全でおいしい食材が豊富にあり、地域の食材として利用していくためには、地域内の流通の円滑化や地産地消の取り組みが必要です。
- ・また、農畜産物の生産や食品加工には、きれいな水が欠かすことのできないことから、河川の水質を維持するという意識の向上なども必要です。
- ・さらには、生産現場からの食の安全性に関する情報や、小売店などにおける生産者情報の提供も必要となります。

目 標
・食の安全に対する情報が豊富で、小売店における生産者情報が豊かなまち
・地産地消の取り組みが活発で、地域内流通が確立しているまち
・水環境保全に対する意識が高いまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・地域内流通の促進に向けた取り組みや、生産者の情報提供を促進する
- ・消費者教育を積極的に行う
- ・地場の美味しい食材を使った新製品・商品の開発、提案を行う
- ・食品の内容にウソがなく安心安全に購入できる仕組みをつくる

1-9 地域コミュニティ

基本テーマ 「魅力あふれる町内会があるまち」

課 題

- ・安全・安心に暮らすためには、地域コミュニティが重要な役割を果たしますが、地域コミュニケーションや世代間の交流が不足している状況にあります。
- ・地域コミュニティの基礎となる町内会では、その果たす役割が減少しており、戸数の適正な設定などの実態に則した見直しや、活発に活動している町内会の情報提供などが必要です。
- ・また、最近、町内会の加入率低下がみられることから、そのメリットや加入方法などのPR、町内会側の受け入れ体制を整え、転入者の町内会加入の関心を持ってもらうことも必要です。町内会の果たしている大切な役割を理解してもらい、町内会に加入することが当たり前という認識を持ってもらうことも必要です。

目 標
<ul style="list-style-type: none">・世代を超えた交流があるまち・転入者に優しいまち・町内会に魅力があり、時代に即した町内会活動が行われているまち・町内会に対して関心が高く、会員同士のコミュニケーションが活発なまち・町内会間の交流が盛んなまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・町内会の活性化のため、その魅力を若者に積極的に伝える
- ・若者も町内会の活動に対する関心を持つようにする
- ・古くから町内にいる人達が若い家族に声をかけ町内会へ勧誘する
- ・地域の世代間交流の促進の取り組みを進める
- ・みんなが参加できるラジ体操の実施など、交流できる取り組みを行う
- ・みんなが気兼ねなく多くの人と挨拶し、交流を深める
- ・市民の良い行いやよい発想を活かし、育てる仕組みをつくる

基本テーマ 「安心して税金を納められるまち」

課題

- ・安心して暮らすことのできるまちづくりを進めるためには、自治体の健全な行財政運営が重要であるとともに、税金の使途の不公平感をなくしていくことや、市民が納める税金が適正に使われていることが当然必要となります。
- ・このため、税金の使途や、税金運用に関する情報などについて、市民周知を図っていく必要があります。

目 標
・税金の使途を誰もが知っているまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・行財政に関する情報を公開し、透明性の高い財政運営を行う
- ・子どもから税の使い道に関する教育を行う
- ・事業によって期待される効果をアピールする
- ・市民と行政との垣根をなくす
- ・退職者や高齢者のパワーを活かして市民所得を拡大し、豊かな財政にする

2 経済・産業

現 状

帯広・十勝は、肥沃な大地を持ち、全国でも有数の日照時間を誇るなど、気候にも恵まれています。

基幹産業である農業は、生産性が高く、地域の基幹産業として、大きな役割を果たしています。生産される農産物は、十勝ブランドとして全国から支持され、食の素材としての評価も高く、その一部は輸出されています。

製造業は、他都市と比べて集積度が低く、付加価値をつけた製品を生み出すことに弱い面があります。また、地元企業のマーケティング力や情報発信力も弱く、これらを強化する必要があると思われます。

農業分野での産学官の連携は比較的図られていますが、産業間の連携に関しては、比較的閉鎖的であり、起業や新たな分野の産業が起こりにくい状況にあります。

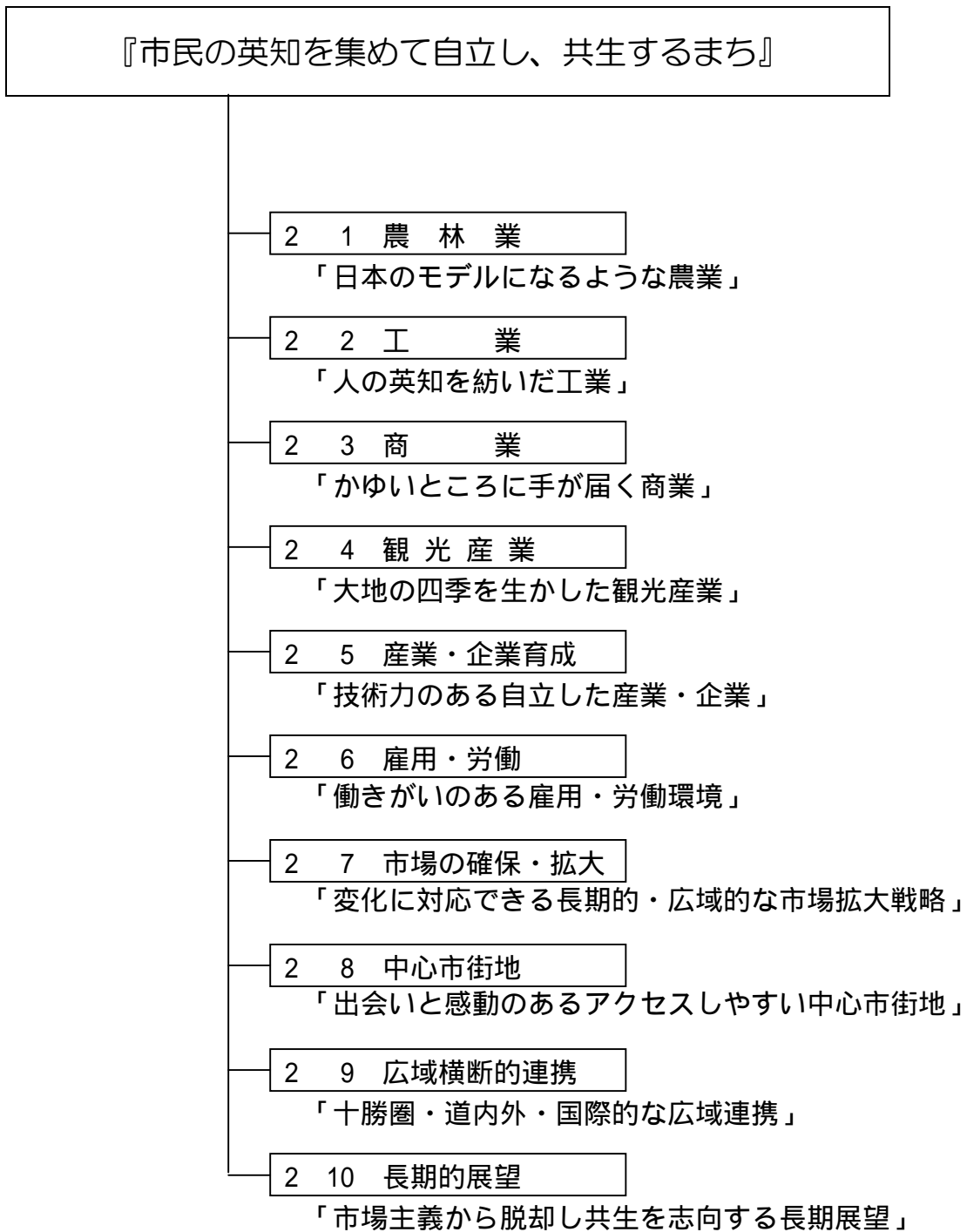
また、帯広は十勝の中心都市ですが、他地域からの参入を嫌う傾向が見られるとともに、海上輸送の利便性が悪く、距離的な制約条件から流通コストが高いことなどの課題があります。

商業に関しては、車社会の到来とともに、大型店舗が帯広市の中心市街地から郊外や周辺町に分散しており、これが中心市街地の空洞化を生み出し、活気が低下してきています。しかし、近年、ホコテン（まちなか歩行者天国）や北の屋台など市民主体の取り組みが行われているとともに、企業においても地域貢献活動を行うところが増えてきています。

観光に関しては、広大な農村景観、十勝川の花火大会やばんえい競馬などの観光資源を持っていますが、トータル的な観光戦略が求められています。

労働面では、給与水準が低いことや就職先が少ないなどの状況にあり、Uターン就職や、移住のためのコーディネート機能の充実が重要となっています。人材育成に関しても、人文系・社会科学系大学がなく、専門的な人材を養成する教育機関が少ない状況にあります。

「経済・産業」分野の構成



2-1 農林業

基本テーマ 「日本のモデルになるような農業」

課題

- ・ 基幹産業である農業は、帯広市にとって重要な産業であり、食料自給率の低い我が国としては、農業支援（助成）金の使い方の見直しなどを図りながら、自国の農業を護っていくことが重要です。
- ・ また、持続的な農業を展開していくためには、農産物を自由に売れる仕組みづくりを進めるとともに、女性の農業経営への参画、新規就農者や農家後継者の育成を図っていく必要があります。
- ・ 時代の変化に対応した農村社会や農協のあり方についても検討が必要です。

目標

- ・ 農業を護り、食料自給率が高いまち
- ・ 農産物を自由に売れ、農産物ブランドが育ち、加工品製造が延びるまち
- ・ 女性や新規の就農者、農家後継者を育てることができるまち
- ・ 時代に即した農村社会に変わっていくまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・ サラリーマンなどの新規就農を展開する仕組みをつくる
- ・ 農産物のブランド化や発信を行う
- ・ マーケティング強化や、ソフト面での研究システムを確立させる
- ・ 農業技術の体系化を図り、それを継承する。
- ・ 帯広畜産大学を積極的に活用する
- ・ 農業委員をはじめ、各層に女性を登用する

2-2 工業

基本テーマ 「人の英知を紡いだ工業」

課題

- ・ 農産物などの原料生産は行われているものの、原料から高付加価値化までの一貫性に乏しく、付加価値のある製品のほとんどが他の地域で生産されている状況にあります。
- ・ 工業振興のためには、工業（製造業）の集積を図り、農業や食品を中心とした製造業を育成しながら、原料から高い付加価値をつける仕組みや、専門的技術者を育成し、特に中小企業の技術力を高める仕組みづくりが必要となっています。

■ 目 標

- ・農産加工や食品加工が育成・集積されているまち
- ・中小企業の技術力が高く、専門的技術者が育成・確保されているまち
- ・高品質・高付加価値商品が作られ、十勝ブランドが育つまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・技術者を育成する仕組みをつくる
- ・地場の素材を活かした付加価値商品を開発する
- ・技術力を向上させる

2-3 商業

基本テーマ 「かゆいところに手が届く商業」

課 題

- ・経済動向や消費形態の変化に柔軟に対応していくためには、商業者が経済動向などの情報を把握することが必要です。また、優れた商業者の育成を図るとともに、商業者自身もさらに経営努力をする必要があります。
- ・消費者の視点で見ると、近所に店がないことや、買い物をするとき公共交通が不便なことなどから、消費者の利便性を高めていく必要があります。また、インターネットによる購入も広がっていますが、高齢者にはその利用も難しいのが現状です。さらに、農産物などの地場商品が手に入りにくいといった課題もあります。
- ・商業振興は、経済面だけでなく、地域への波及効果もありますが、商業施設が分散し賑わいがなく、中心市街地に活気がないことも課題となっています。

目 標

- ・経済の情報戦略を打ち立て、好循環が作られているまち
- ・消費形態の変化や、高齢社会に対応したまち（情報、交通、安全）
- ・商業関係の人材が育つまち
- ・買い物しやすい商店街や店があるまち
- ・強いブランド力を持つまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・経済情報の提供や集客のための祭りやイベントなどを実施する
- ・地産地消の仕組みづくりや高付加価値商品を増やす取り組みを行う
- ・多様な価値観、ニーズに応える商店街づくりを行う

2-4 観光産業

基本テーマ 「大地の四季を生かした観光産業」

課題

- ・地域には観光資源が少なく、知名度が低いことが課題であり、これは観光パッケージが洗練されていないことも一因となっています。明確な観光戦略をもとに観光メニューを整備して、これを市民へ周知するとともに、外部へのPR活動を活発に行う必要があります。

目標

- ・地域を挙げて観光戦略に取り組んでいるまち
- ・地域資源を発掘し、観光資源として育てられるまち
- ・農業や食材を生かした観光受入れ体制が構築されているまち
- ・観光パッケージを作り、PR活動が行われているまち
- ・多くの市民が観光産業の育成に関わっているまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・花火大会やラリー、スケート、ばん馬などを観光資源に活用する
- ・農村の景観や農産物を生かした観光パッケージを育てる
- ・歴史のある施設や農家などを生かした観光拠点をつくる
- ・ネットワークと情報拠点を整備する
- ・十勝全体で観光に取り組むとともに、通年観光のプログラムをつくる
- ・観光への資本投下など、市民主体の観光事業を育成する

2-5 産業・企業育成

基本テーマ 「技術力のある自立した産業・企業」

課題

- ・優れた人材や企業が市外に流出するとともに、中小企業の力が不足しているなど、企業や産業が自立していく上で課題になっています。
- ・経営者や企業人の育成とともに、人材や技術を確保する仕組みが必要となっています。また、企業誘致や優れた人材を呼び込む努力も必要です。

目 標

- ・優れた産業人や中小企業が育つまち
- ・新規起業が支援されているまち
- ・企業誘致に積極的に取り組んでいるまち
- ・産業振興に役立つ情報発信が行われているまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・自立する産業への意識や経営の知識などを教える仕組みをつくる
- ・情報発信の戦略や仕組みをつくる
- ・依存体質をなくし、自立した経営体制を促進する
- ・自然に優しいエネルギーを使った産業を育てる
- ・産学官の情報公開の一本化を図る

2-6 雇用・労働

基本テーマ 「働きがいのある雇用・労働環境」

課 題

- ・給与水準が低く、就職先や雇用機会が少ないことや、学生の就労意欲が低く、高いスキル（技術）を持った人材が少ないことが課題です。
- ・必要な人材を確保するためには、若者やU・J・Iターン求職者の受け皿を整えるとともに、女性の就労条件も改善していく必要があります。

目 標

- ・雇用の受け皿が多様なまち
- ・男女雇用機会均等が実現され、女性の就労環境が良いまち
- ・人材が育ち、賃金をはじめとする労働条件が良いまち
- ・学生の就労意欲が高いまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・学校と連携した人材育成を図る
- ・移住コーディネーターを配置する
- ・技術や知識を教える教育機関を増やす
- ・給与・所得水準を確保する

2-7 市場の確保・拡大

基本テーマ 「変化に対応できる長期的・広域的な市場拡大戦略」

課題

- ・市場確保のためには、定住政策の推進とともに、消費者ニーズに即した高品質の商品の供給が必要です。
- ・また、産業経済をとりまく環境は、人口減少社会の進行や、車社会の発展による産業・生産施設の郊外へ移転、生活様式や消費形態、価値観の多様化など、大きく変化しており、これらに的確に対応していくためには、既成概念にとらわれない、新たな戦略を立てていく必要があります。

目標

- ・人口減少社会における市場の変化に対応できるまち
- ・生活様式、価値観の変化に対応した戦略があるまち
- ・高付加価値商品により市場が開拓され、拡大しているまち
- ・長期的視野に立ったまちづくりが行われているまち
- ・交流人口拡大策・定住促進策により市場規模が維持されているまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・車社会、高齢化、電子化の進展への対応策を打ち出す
- ・定住促進策を構築し推進する
- ・土地利用計画などを見直し、コンパクトな街をつくる
- ・大都市の住民ニーズを捉え、市場を開拓する
- ・持続性や健康志向を重視した商品を開発し市場に参入する

2-8 中心市街地

基本テーマ 「出会いと感動のあるアクセスしやすい中心市街地」

課題

- ・まちの顔である中心市街地に賑わいがなくなることが大きな課題となっています。中心市街地の役割を明確にするとともに、商店主も中心市街地に対する意識をさらに高めていく必要があります。
- ・中心市街地に賑わいがなくなった要因としては、まちに統一感がなく魅力に乏しいことや、テナント料が高いために空き店舗が増加していることなどが考えられます。
- ・また、交通弱者などは中心市街地までなかなか出かけられないことも課題です。

目 標

- ・ 中心市街地の役割と機能が明確なまち
- ・ 来訪者のニーズを満足するサービスが提供されているまち
- ・ 公共交通網が充実したまち
- ・ 市民が参加するエリアを設けシンボルとして育てられているまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・ 長期的視野に立って時代変化を予測し対応する
- ・ 市民参加により、中心市街地を盛り上げる
- ・ テナント料を引き下げる
- ・ 人と物が出会う（喜び、驚き）環境をつくり、通りの賑わいを創出する

2-9 広域横断的連携

基本テーマ 「十勝圏・道内外・国際的な広域連携」

課 題

- ・ 産業経済の発展のためには、広域的な連携が大切ですが、他地域との連携が弱く、十勝圏全体で共通課題が検討されていない状況にあります。また、交流人口が増えていないことも課題となっています。
- ・ 広域的連携に関する情報拠点の整備やコーディネートする仕組みが必要です。

目 標

- ・ 十勝圏域全体で考えられているまち
- ・ 他地域との連携が強いまち
- ・ 経済動向などが情報として周知されているまち
- ・ 国際性のある地域づくりが行われているまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・ 姉妹都市とのつながりを深める
- ・ 流通ネットワークを確立する

2-10 長期的展望

基本テーマ「市場主義から脱却し共生を志向する長期展望」

課題

- ・産業経済の持続的発展のためには、高齢社会への対応など、長期的な展望を持って取り組みを進めていく必要があります。
- ・様々な経済分野で後継者不足が続くと予想される中で、これに対応する戦略を立てる必要があります。
- ・これまで築きあげてきた歴史の中にある古い価値があるものを、活かしていく視点も必要です。

目標
<ul style="list-style-type: none">・生活様式の変化に対応する長期的な戦略があるまち・労働力不足に備えた対策を立てられているまち・歴史的遺産等を活かす工夫がされているまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・古い建物などを活用したまちづくりを推進する
- ・産業と福祉施策との連携を推進する

3 環境・生活

現 状

帯広市は、四季がはっきりしており、十勝晴れに象徴される美しい青空や美味しい水を育む豊かな自然に恵まれています。

これまでの都市づくりは、市街地が郊外に拡大した結果、都市基盤の中途半端な状況やスプロール化も見られ、集約的な土地利用が必要な時期にきています。これまでのハード中心、利益追求型のまちづくりは過渡期にあり、地域の活力も地区ごとに差が出てきています。

居住空間としては、職住近接型であり通勤時間も短く、また、比較的高校が多いことや美術館はじめ、パークゴルフ場・コンビニなどもあり、利便性が高くなっています。しかし、一方で自家用車中心の生活スタイルが定着しており、バスなどの公共交通機関が不便な状況にあります。

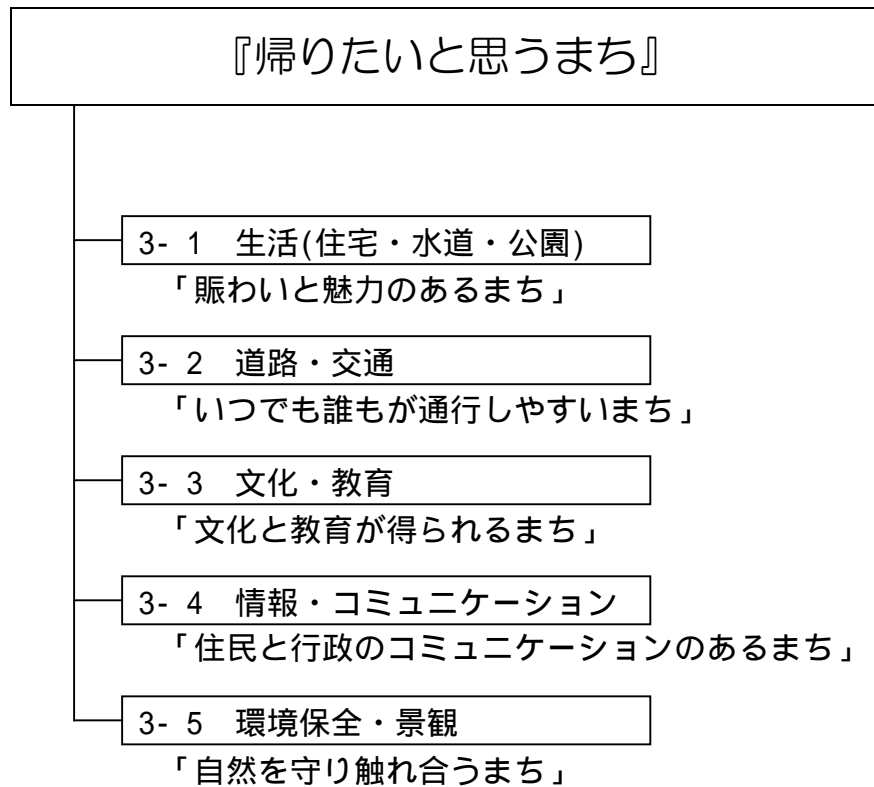
また、交通基盤となる道路の舗装化は進んでいますが、歩道の舗装状況や、冬季間の除雪は決して良いとはいえない状況にあります。

このほか、公園施設のなかには使いづらいものもあり、文化施設、高等教育・生涯学習機能の充実が必要なものや、文化面での市民交流が少ないなど、まちの魅力に欠ける面もあります。

景観面では、防風林やまっすぐに伸びる道路など十勝を代表する景観がある一方で、中心市街地には魅力がなく、まちには歴史や文化を感じさせるものが少ない状況にあります。農村部においても、豊かな農村景観が大切にされていない状況にあります。

市民生活を高めていくためにはコミュニケーションが大切であり、行政は市民との対話と説明責任を果たすことが求められています。また、住民同士のコミュニティの場も必要となっています。

「環境・生活」分野の構成



3-1 生活(住宅・水道・公園)

基本テーマ 「賑わいと魅力のあるまち」

課 題

- ・市民が快適に生活するためには、日常の暮らしにかかわる住宅地や公園などが充実している必要があり、そのためには、帯広市全体の土地利用が示されていることが必要です。
- ・都市機能の拡散により車がないと不便なまちになっています。また、中心街の休憩場所が少ないなど、魅力不足も課題です。
- ・住環境については、北海道・帯広らしさがないことや、夢のある宅地開発が行われていない、あるいは空き家・空き地の増加などの課題があります。
- ・市民の憩いの場である公園については、砂場などの清掃が徹底されておらず、水遊びができる施設が少ないことなどから、公園で遊ぶ子どもが少なくなっています。
- ・帯広市にはきれいな河川があり、豊かな自然が育むおいしい水もありますが、この保全も大切なことです。

目 標
<ul style="list-style-type: none">・一極集中と地方分散の調和が図られたまち・子どもも安心して遊んだり学んだりできる環境が整備されたまち・10年後の人口が減少しないよう対策が取られたまち・安らぎと潤いのあるコミュニティ豊かなまち・中心市街地に活気と潤いがあり、市民が憩えるまち・花と緑の癒しのある空間があり、和める暮らしができるまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・スクラップアンドビルドからストック有効利用へ転換を図る
- ・都会的発想の宅地づくりをやめ、帯広らしい田園の住環境をつくる
- ・街なかでの小規模なオープンカフェ設置や椅子とテーブルを設置する
- ・中心部での大規模駐車場の設置する
- ・中心部居住者に対する住民税減免制度を創設する
- ・歩道幅員の拡大による緑・いやし空間の実現や、全天候型の公園をつくる
- ・西2条通りに釣りも楽しめる人工河川をつくる、地下街をつくる、冬にスケートリンク道路をつくるなども一案である
- ・中心部でのポケットパークの設置や、中央公園に大きな木を植える

3-2 道路・交通

基本テーマ 「いつでも誰もが通行しやすいまち」

課 題

- ・冬の道路については、冬季においては除雪・排雪の不徹底や遅れ、歩道の除雪回数の不足、町内会の道路除排雪が滞るなど、安全に支障があります。
- ・また、歩道には凹凸があり歩行に支障があるほか、街路灯がさびていて汚いばかりでなく、危険でもあります。
- ・公共交通機関については、温暖化対策など環境に負荷をかけない視点からも、その利用増を図っていく必要がありますが、運賃が高く、公共交通の便数が少ないなど、利便性において課題があります。
- ・また、公共施設の駐車場が少なく、利用者に支障が生ずることがあります。

目 標
<ul style="list-style-type: none">・利用しやすい交通体系が整備され、利用しやすい路線バスのあるまち・公共の乗り物が気軽に利用できるまち・歩道が歩きやすく道路整備されたまち・除雪が徹底されたまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・トランジットモールなど楽しくまちを歩ける街路をつくる
- ・帯広の歴史を踏まえた中心市街地の街路を再生する
- ・ブラックアイスバーン対策など、市民ニーズに対応した除雪体制を強化する
- ・現実の交通需要を再度確認し、適切な道路交通体系づくりや整備を図る
- ・自転車専用道路を整備する
- ・バイオディーゼルやバイオエタノールを使った路線バスへ転換する
- ・郊外集積拠点と中心市街地を結ぶバス交通を整備する
- ・公共交通に市の援助を行い、休日のバスを増便する
- ・バスに DMV を導入する、ヒッチハイクが合法的に活用できるようにするのモ一案である

3-3 文化・教育

基本テーマ「文化と教育が得られるまち」

課題

- ・文化・教育施設は、ハード面、ソフト面とも充実しているとは言えず、コミュニティセンターの複合的利用を図っていく必要があります。
- ・また、文化・教育に対するシステムの充実も必要です。

目 標
<ul style="list-style-type: none">・いつでも誰でもが学べるシステムのあるまち・歴史と文化が継承されるまち・帯広らしい文化にあふれたまち(おかしロード)・「ばんえい競馬」や「祭り」が続けられるまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・生涯教育施設の充実と人材の育成・確保を行う
- ・市民ニーズにあった文化・教育施設の拡充や出前講座を充実する
- ・学習コーディネーター、インストラクター、インキュベーターを育成する
- ・図書館ネットワークをもっと活性化させ、自宅から歩いていけるところへの図書館分館設置や市内の東西南北にサテライト図書館を建設する
- ・図書館をもっと自由に使用できるようにする
- ・大学・専門学校からではなく、中学高校から行政の仕事を体験させる
- ・帯広畜産大学の充実を図る
- ・タクシーの変わりにばんば馬車が行き交うようにする
- ・昼は「お菓子ロード」、夜は「北の屋台」を楽しめるようにする
- ・駅前に十勝のお菓子屋さんを集めたスイーツストリートをつくる

3-4 情報・コミュニケーション

基本テーマ「住民と行政のコミュニケーションのあるまち」

課題

- ・まちづくりを進めていく上では、行政の市民に対する説明や行政と市民の対話を通じて、説明責任や情報の共有を図ることが重要です。
- ・また、市民同士の交流を活発にし、地域コミュニティを形成していく必要がありますが、現状では市民交流が少ないなどの課題があります。
- ・予算の使途の情報を提供し、バランスを欠かないようにすることも必要です。

目 標
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民と行政が積極的にコミュニケーションを図れるまち ・ 町内会活動が活発なまち ・ 行政が子どもの生の声を聞き実際に動けるまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・ 行政は積極的に市民の声を聞く体制づくりを進める
- ・ 行政に関するインフォームドコンセント（説明と同意）を図る
- ・ 行政プランを開示し、予算の執行状況を市民に詳細に説明する
- ・ 老人に対する行政の目をもっと優しくする
- ・ 書き込みできる市長のブログを開設し、市民にまちづくりの夢を語る
- ・ 市民参加のマニフェストを作成する
- ・ 電子情報のみならず、人と人のコミュニケーションを誘発する情報の発信を行う
- ・ 市職員の民間企業への出張研修を行う
- ・ 老いも若きも交流できる豊かなまちにする
- ・ 各町内会で生涯学習のメニューづくりをする

3-5 環境保全・景観

基本テーマ 「自然を守り触れ合うまち」

課 題

- ・ 行政の環境に対する取り組み姿勢が足りなく、また、住民も恵まれている自然に対する意識が低い状況にあり、自然に対する教育を進めていく必要があります。また、市街地は緑が少なく、自然との共生が図られていないことも課題です。
- ・ 豊かな農村景観が保護されておらず、まちの景観には、歴史・文化が感じられませんが、
- ・ 子どもたちの生活の場でもある学校の建物は、夢のある景観が必要です。

目 標
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境を活かした観光を楽しめるまち ・ 自然に対する教育と啓発が図られているまち ・ 自然の恩恵に関する教育と認識のあるまち ・ グリーンエリアの確保されているまち ・ 現存する建物を活用した画期的なまち ・ 人口の安定を礎にして都市機能が充実しているまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・ バイオディーゼルやバイオエタノールの利用率が全国一の地方都市を目指す
- ・ 遊休化したコミュニティセンターや学校を市民に開放する
- ・ 自然と共生した観光施設などの整備を図る
- ・ 市内の河川を有効活用した回廊づくりを行う。売買川を利用し帯広畜産大学内に親水公園を整備するのも一案である
- ・ 高齢者、子どもと一緒に遊べる空間をつくる
- ・ 街路樹を多く植える。並木を育てる
- ・ 公共の場所、広場に彫刻・モニュメントを設置する

4 子育て・教育

現 状

子育てに関しては、子育て支援センターなどの施設やブックスタートなどの制度が充実しており、子育てボランティア活動も活発ですが、核家族化が進み、父親の子育てへの参加が難しいことや、働く母親への理解が進んでいない状況にあります。

また、保育の面では、経済的な負担が大きいほか、病児保育の充実など、保育体制も時代にふさわしいものにしていく必要があります。このほか、放課後の子ども居場所が少なく、塾通いや遊技場で遊ぶ子どもたちや、TVゲームなどが浸透していることから、野外において、異年齢の集団で遊ぶ子どもたちの姿が見られない状況にあります。

これからの時代の子育ては、地域ぐるみの取り組みが重要になってきます。その基礎となる地域のコミュニティにおいては、人間関係がドライになってきている中で、異世代間の交流を活発にすることが求められています。

また、出産に関しても、助産院がなく、妊婦検診の負担が大きいなど、安心して子どもを産むことのできる体制が求められています。

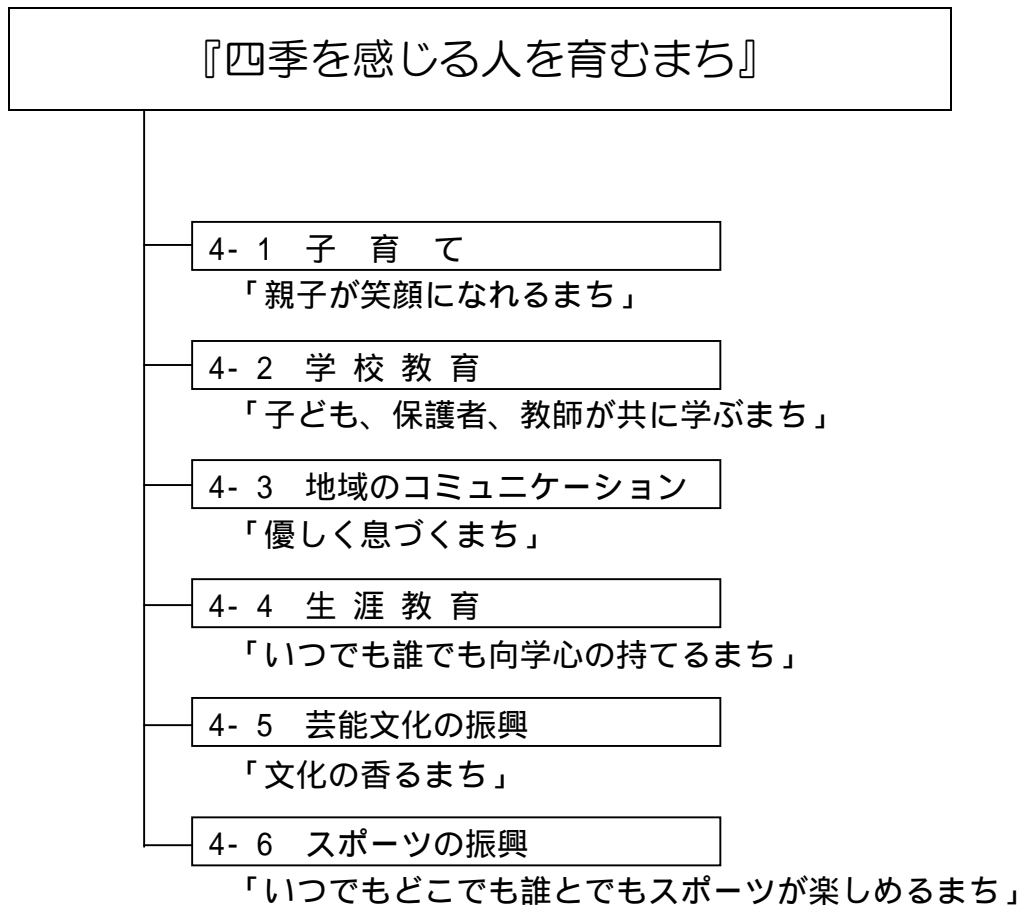
学校教育に関しては、学校・家庭・地域が連携して取り組まなければなりません。地域ボランティアによる交通安全指導や小学校ごとの教育活動の関心は高くなっていますが、他校との交流・情報交換が必要です。

また、PTA活動では、お父さんの参加が少なく、保護者と教師との関係も希薄になってきています。さらに、帯広・十勝の歴史などふるさと教育を積極的に取り入れていく必要があります。

生涯学習については、図書館が改築され充実しています。動物園が市街地にあることは良いことですが、遊具や動物展示に工夫が必要です。

また、スポーツ施設は充実し利用しやすい環境にあるものの、芸術文化に関しては、市民の関心も薄く、子どもの文化活動に対する市の支援や教育は遅れている状況にあります。

「子育て・教育」分野の構成



4-1 子育て

基本テーマ「親子が笑顔になれるまち」

課題

- ・ 出産・育児においては、母親への支援が少なく、父親が育児に参加しにくい社会となっており、父親自身も子育てのために早く帰宅する意識が不足しています。このため、母親が家事と仕事を両立しにくい状況にあることが課題になっています。
- ・ また、出産にあたっては、安心して出産できる環境を整えることが必要です。
- ・ 子育てにおいては、保育制度が市民ニーズにあわない部分があるほか、オムツゴミ袋制度を改善するなど、負担軽減が求められています。
- ・ また、子育てに関する役所内及び行政間の連携強化が必要です。

目 標
<ul style="list-style-type: none">・ 安心して出産でき、育児ができ、子どもをたくさん生みたくなるようなまち・ 協力し合って子育てでき、働きながら子育てが楽しいまち・ 病児保育の充実したまち・ 父親が育児に参加しやすいまち・ 男女共同参画条例をつくり推進するまち・ 安全な遊園地のようなまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・ 育児休暇、出産後の職場復帰ができやすい環境づくりを行う
- ・ 職場、地域が一体となり父親が育児に参加できる環境づくりを行う
- ・ 出産・育児に対する経済的支援を行う
- ・ お母さん同士が繋がりを持てる環境づくりを行う
- ・ 子育て支援に取り組む企業への政策的支援を行う（母親の再就職・育児休暇）
- ・ 子育てを行う母親への支援を充実するとともに、病児保育を充実させる

4-2 学校教育

基本テーマ「子ども、保護者、教師が共に学ぶまち」

課題

- ・ 学校における教育では、教師にゆとりがなく、学校と親のコミュニケーションが不足しています。また、食育教育が不十分であり、帯広・十勝の歴史や農業を知らない子どもや親が多いことも課題です。

- ・子どもの登下校時においては、子どもの登下校を見守る体制が十分でなく、学童保育の充実も必要です。また、農村部ではスクールバスの便が悪い状況にあります。
- ・休日等における状況では、隣近所の子どもと遊べる環境づくりが必要であるほか、子育てに対する企業の理解不足もあり、ハッピーマンデー制度などの休暇を活用できていないなどの課題があります。また、地域等への学校開放においても不便な面があります。

目 標
<ul style="list-style-type: none"> ・安心して学びあえる学校のあるまち ・農業・食に関する教育の充実したまち ・帯広・十勝の歴史を知っている市民や、農業に詳しい市民がいるまち ・学校給食の充実したまち ・父母の協力で子育てできるまち ・若く活気があり、能力のある人が住みたくなるまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・学校と家庭のコミュニケーションづくりを行う
- ・地域文化教育の充実を図る
- ・農業・食育の絵本の作成や、食育プログラムを作成する
- ・中学生に対しても、保育についての教育を充実する
- ・子どもと教師、教師と保護者、保護者と子どものつながりを深める
- ・学校の教員数の確保または外部講師の活用を図る
- ・学校給食の充実を図る

4-3 地域のコミュニケーション

基本テーマ「優しく息づくまち」

課 題

- ・子育てには地域や企業などのバックアップが必要です。
- ・地域においては、民主的な町内会づくりや町内会活動の活性化を図りながら、地域が親を育てるという視点も必要です。
- ・企業においては、経営状況の悪化が子育てに影響することが懸念され、父親が育児休暇や有給休暇を活用する意識も不足しています。このため、地域の企業・経済を支援する仕組みも必要です。

目 標
<ul style="list-style-type: none"> ・弱者に優しいまち ・学生・若者が戻りたいと思うまち ・地域全体で子どもを育てる（見守る）まち ・中学生・高校生の居場所のあるまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・町内会活動などを利用し、地域全体で子どもを育てる仕組みをつくる
- ・子ども達の意見を聞くための子ども会議を設立する
- ・ボランティア講義を行い、ボランティア活動をする人を増やす
- ・町内会ごとに気軽に集まれるサロンづくりなど、町内会の活性化を図る

4-4 生涯教育

基本テーマ 「いつでも誰でも向学心の持てるまち」

課 題

- ・生涯教育への意識が低く、特に芸術文化面でその傾向が強く出ています。
- ・生涯学習を推進するためには、市民大学講座の充実や、低料金のカルチャー講座の推進、水辺の楽校のようなさまざまな教育活動に関する情報提供が求められています。
- ・また、動物園などの生涯学習施設への交通アクセスの向上や、十勝らしさを活かした動物園や、科学館（児童会館）の整備が必要です。

目 標
<ul style="list-style-type: none"> ・いつまでも自ら学ぶまち ・科学館などがあり、子どもの科学心を満たすまち ・農業について学べるまち ・十勝らしく何度も行きたくなる動物園のあるまち ・企業家が育つまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・既存施設の有効利用のための情報提供、交通アクセスを改善する
- ・十勝型動物園（家畜展示、農業体験、食品加工）への転換を図る
- ・地元研究機関と連携した科学施設やカリキュラムを整備する
- ・酪農体験のできる施設を整備する
- ・交通機関の充実でどこへでも出向ける方策を立てる

- ・ 農業国・十勝らしさを気軽に学べる情報を発信する
- ・ とかち特産の加工体験ができる施設を整備する
- ・ 学校の空き教室を活用する
- ・ 児童会館を整備し、子どもたちが様々な視点で学べる学習の場に改善する
- ・ 生涯学習に対する市民の意識を高める

4-5 芸能文化の振興

基本テーマ「文化の香るまち」

課 題

- ・ 文化に対してお金をかけようとする意識があることや、地域の芸能が少なく、人材も育っていないことから、個性ある芸能が発展しにくい状況にあります。

目 標
・ 個性が伸ばせ、クリエイターが生まれるまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・ 市民講座、カルチャースクールなどの情報提供を行う
- ・ 芸術文化活動への支援や伝承芸能を保護、育成する
- ・ 学校教育に文化鑑賞の機会を増やすとともに、廃校を利用した文化施設をつくる
- ・ 地域 NPO と協働する

4-6 スポーツの振興

基本テーマ「いつでもどこでも誰とでもスポーツが楽しめるまち」

課 題

- ・ スポーツを振興するためには、指導者やサポートする人材を育成するとともに、スポーツ教室のカリキュラムを充実することが必要です。
- ・ 施設の面では、プールなどの数が足りなく、施設の使用料金が高く、特に東地区ではスポーツ施設が少ない状況にあります。
- ・ また、簡単な運動などには空き教室の有効活用を図る方法もあります。

目 標
<ul style="list-style-type: none">・いろいろな場所でいろいろな人がスポーツ活動に参加できるまち・スポーツ選手の育つまち

～ワークショップで出された方策例～

- ・スポーツ施設利用料金を引き下げる
- ・指導者の手配、施設の利用計画などの総合的スポーツカリキュラムを整備する
- ・親子で参加できるスポーツイベントを行う
- ・町内会や子ども会などでスポーツレクリエーションを実施する

5 市民協働

現 状

協働が行われる分野は、福祉や教育、経済・産業など幅広く、その主体も市民、企業、NPOなど様々です。全国各地で協働に関する取り組みが進められていますが、協働に取り組みたい住民にとって必要な情報や活躍の場を、より効果的に住民に提供する仕組みづくりが求められています。

安全・安心の市民協働では、地域をあげて弱者に対する支援や、子どもを犯罪から守るための仕組みが求められています。

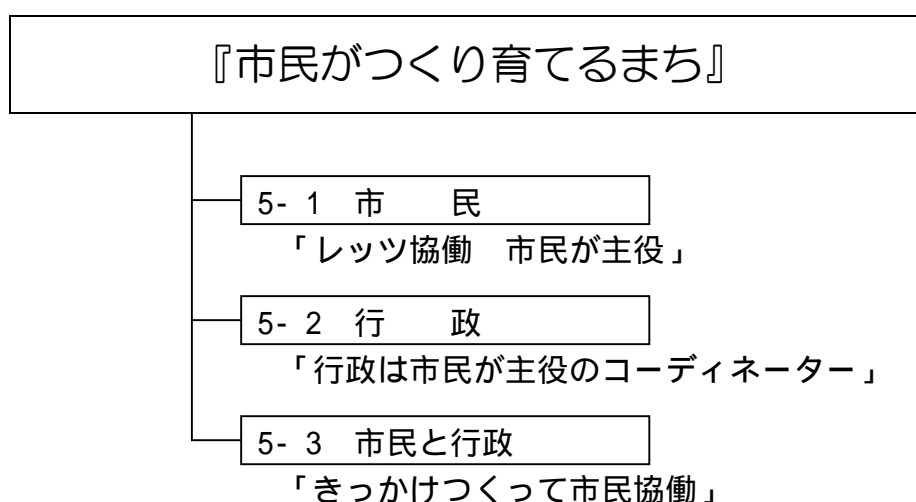
経済・産業の市民協働では、まちづくりを担う人材育成や中心市街地の活性化など活動に対して、行政が支援しながら取り組んでいくことが求められています。

環境・生活の市民協働では、公園管理、河川環境保全、祭りなどイベントなどについて協働の取り組みが進められており、豊かな自然を市民の手で育むための仕組みや、道路や森などの維持管理分野での協働などについても取り組んでいくことが求められています。

子育て・教育の市民協働では、子どもの心の教育や、協働に関する知識をどのようにして子どもたちに伝えるかが課題となっており、解決のためには家庭はもとより、地域のおじさんやおばさん、学校の先生が協力していくことが大切です。

また、協働の基本となる地域コミュニティについては、若い人が地域活動に参加できるような環境づくりや、地域内の世代間交流の一層の拡大が期待されています。

「市民協働」分野の構成



5-1 市民

基本テーマ 「レッツ協働 市民が主役」

課題

- ・まちづくりを行うためには市民の力が必要となります。しかし、市民の中には協働意識の欠如やゴミを無秩序に放置するなど、モラルの低下がみられるとともに、マンション入居者が町内会に加入しない又は加入しづらいといった状況がみられることや、若い人達が地域活動に参加できるような仕組みがないなどの課題があります。
- ・協働を進めるうえでは、市民同士の活動や話し合いが必要不可欠ですが、市民同士の活動がしづらい状況となっているため、地域活動しやすい地区割りを検討することも必要です。
- ・コミュニティ活動が活発な地域もありますが、その活動量は地域によって大きな差があり、活動しづらい環境や人材（担い手）の不足、さらには、住民が市の情報に気づかない、分からないといった課題があります。

課題解決のための仕組みづくりの例

- ・町内会に負担がかからない仕組みづくり
- ・市の施策に対する市民による評価システム
- ・市民が自主的に参加できる町内会づくり
- ・町内会以外でもできることの仕組みづくり
- ・市民の意見を市民が選び、市の事業に反映する仕組みづくり
- ・地域で市民を支えるまちづくり
- ・教育現場でボランティアを必修できるような仕組みづくり
- ・ボランティア同士が話し合いできる場をつくる仕組みづくり
- ・ボランティア情報交換の場として報告会などを行う
- ・学生のうちに協働を学び体験できる仕組みづくり

5-2 行政

基本テーマ 「行政は市民が主役のコーディネーター」

課題

- ・市民協働は、市が主導で行うものではなく、本来は市民主体で行うべきものです。
- ・市民の活動に対する支援として、市民協働に従事する人のための保険制度や、活動に対する小口の補助金制度の創設とともに、新しい事業ばかりでなく既存の取り組みにも目を向ける必要があります。現在でも市民団体等が提案する協働のまちづくり事業が実施されていますが、周知が不十分であり、広くPRする必要があります。

また、大きな団体が行うまちづくりへの助成だけではなく、小さな市民活動にも目を配り、団体や人を育てて行く必要があります。

- ・助成を行った場合には、報告会などを行い、評価することが必要です。評価・公開することで、市民が提案するまちづくりが広くPRされます。
- ・協働についての相談や問合せに対応できる専門の協働窓口を置き、また、その存在を広く市民にPRすることが必要です。
- ・ボランティアに興味をもってもらうことやボランティアに興味はあっても行動に移せないような人に対し、ボランティア募集などの情報発信を積極的に行うことが必要です。
- ・市の職員の中には、協働に関して無関心な人がいることから、同じ市民として、協働のまちづくりについて議論する場を作ることが必要です。

課題解決のための仕組みづくりの例

- ・市民協働を先導的に行うタクト役が市には必要である
- ・市の協働の取り組みが市民に伝わる仕組みづくり
- ・協働についてPR、育成する仕組みづくり
- ・市民協働プロジェクトの立案
- ・大きな予算や財政状況を市民に知らせ、意見を聞く場が必要
- ・社会福祉協議会(ボランティア窓口)の存在をもっと広く伝える
- ・まちづくりに対する市の成果がわかるような仕組みづくり
- ・市が全戸配布システムを利用する
- ・まちづくりに対する市民の提案に対しどれだけ市は応えたかなどの情報公開
- ・広報の内容を市民にとって面白く関心あるものにする
- ・市の横断的な情報共有化と連携強化
- ・市民協働に関する総合的な窓口の設置
- ・市の考え方を市民に伝える仕組みづくり
- ・市が地域の課題を見つけて解決できる仕組みづくり
- ・市が町内会を育てていく仕組みづくり
- ・市民と市民が個人の要求を調整し、まとめていく仕組みづくり(コミュニティセンターにコーディネーターを配置する)
- ・ボランティアや町内会に対し必要経費を出せる仕組みづくり
- ・市の情報開示の方法を検討する
- ・教育現場でボランティアを必修とする
- ・ボランティア同士が話し合いできる場をつくる仕組みづくり
- ・市が協働したいことを市民に明確に伝える

5-3 市民と行政

基本テーマ「きっかけつくて市民協働」

課題

- ・市民協働を進めるためには、市民と市をつなぐコーディネーター、マネージャーの育成が必要です。また、市民協働の交流会、情報交換会等による情報提供を図り、協働の取り組み手法を示すことも必要です。
- ・市民がボランティアに気軽に参加できる仕組みづくり構築するとともに、企業においても協働の機会を増やすことが求められます。そのためには、地域活動に対して評価される仕組みが必要です。

課題解決のための仕組みづくりの例

- ・まちづくりを市民が提案し、それに対する評価を行う
- ・市民協働窓口の設置
- ・市民マネージャーの設置
- ・ボランティア窓口としてのコミュニティセンター活用
- ・ボランティアを対象とする相談窓口の創設
- ・市民協働情報をフリーペーパーなどを活用してPRする仕組みづくり
- ・市民協働のきっかけ（声かけ）ができる仕組みづくり
- ・同じ区域内で教育・安全・介護などのあらゆる問題に取り組める仕組みづくり
- ・市の情報が町内会だけに偏らないようにまんべんなく伝える仕組みづくり
- ・市と町内会とが情報共有できる仕組みづくり
- ・ボランティアの受け手（市）と受け取り（市民）の双方窓口が必要

3. 参加者名簿

検討分野	参加者	
安全・安心 「チームあん」	相原 英子	高橋 幸人
	大西 利市	武井 純子
	榊 洋子	戸出 典恵
	佐々木 泰子	豊田 ひろみ
	嶋田 祐樹子	樫山 仁一
	高橋 秀暢	渡辺 義治
経済・産業 「防風林チーム」	阿部 千鶴子	中田 真光
	石井 旭	林 克彦
	加藤 正博	藤岡 賢
	上村 明仁	松田 孝志
	佐藤 賢一	茂古沼 清
	田中 銀次郎	山岸 裕
環境・生活 「1884 環生夢チーム」	池添 博彦	土屋 光廣
	石川 哲憲	椿 絵理
	笹川 洋子	道見 康文
	佐々木原 聖	堀川 浩一
	杉山 雅則	藤原 公人
	高橋 麻友美	宮本 高市
子育て・教育 「TEAM子宝」	青木 啓洋	齋藤 節子
	朝日 照夫	清水 マチ子
	新井 英樹	所 弘輝
	伊藤 智美	羽賀 陽子
	井口 芙美子	萩野 明宏
	加藤 みち	堀江 紀子
市民協働 「協D○のまちづくりチーム」	伊藤 容子	樋渡 康
	岩田 博樹	松崎 拓郎
	大越 光敬	村中 順子
	織本 佳奈	森 彦四郎
	相馬 昇	山田 純三
	津久井 寛	

五十音順、敬称略

4 . 取組経過

ワークショップ開催場所：帯広市役所 10階第6会議室

	日 時	出席者数	内 容
オリエンテーション	平成19年7月27日 19:00～21:00	45人	事務局説明 <ul style="list-style-type: none"> ・新しい総合計画について ・「おびひろ市民みらい会議」の趣旨 ・会議の進め方 ミニ講演 佐藤アドバイザーからまちづくりへの市民参加について講演いただきました。 グループ討議 ワークショップ方式の議論に慣れることも兼ねて、分野ごとのグループで、日ごろ感じている帯広市の「良いところ」「悪いところ」について出しました。
第1回	平成19年8月2日 19:00～21:00	48人	グループ討議 前回は引き続き、帯広市の「良いところ」「悪いところ」について出し合い、それらをいくつかのキーワードでくくりました。
第2回	平成19年8月9日 19:00～21:00	40人	グループ討議 いくつかのキーワード別に、解決すべき「課題」について項目を整理しました。
第3回	平成19年8月23日 19:00～21:00	40人	グループ討議 整理した課題を元に、めざすまちの姿である「目標」について検討しました。
第4回	平成19年9月11日 18:30～20:30	40人	グループ討議 キーワード毎の「目標」となるキャッチフレーズを作りました。また、最後に、それらの目標を達成するための「方策」についてアイデアを出し合いました。 グループ発表 各グループの検討結果を発表しました。 講評 佐藤アドバイザーから、これをきっかけとして、今後のまちづくりへの参加に対する期待を、講評としていただきました。
提言書提出	平成19年11月12日	5人	各グループの代表者から市長へ提言書を手渡しました。